

進化と継承

福井県議会議員

笹原修之 NEWS



みなさまの声を
県政に届けます

令和4年7月の初当選以来、皆様に支えられ、あっという間に8ヶ月が経ちました。日頃より県議会議員活動にご理解とご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

さて、2月議会は第19次民主議会の最終議会ということで、昨年末からの県政の重要課題である北陸新幹線福井開業や敦賀以西着工について、また原子力行政や新型コロナウイルス感染対策など、国と対峙するテーマが数多くありました。そして、それらの課題解決に向けて日々勉強を重ねながら、県議会と知事部局が足並みを揃え、県政の両輪として国への働きかけを行ってまいりました。

北陸新幹線福井開業まであと1年となりました。100年に一度のチャンスを確実に掴むため、皆様と一緒にあわら市と福井県の明るい未来に向けて、全力を尽くしてまいりますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

今号では、県議会で議論された様々な分野に対する会派代表質問の内容をお届けいたします。

知事の政治姿勢について①

Q. 長期ビジョンに基づくこれまでの取組の総括を伺うとともに、福井の新しい時代をどのように開いていくのか、知事の思いと覚悟をお聞かせください。

A 知事

県民チャレンジの徹底応援、さらには価値づくり産業への支援を行い、もっと挑戦、もっと面白くという社会の実現に努めてきたところです。また、子育て支援の予算の倍増、県立大学の新学科の創設により、国に先んじて人への投資への実現も図り、開業効果の最大化、ふく育県の拡大や経済の成長、幸福を実感できる社会に向けて、チーム福井一丸となって挑戦し、福井の新しい時代を拓いていきたいと考えております。

知事の政治姿勢について②

Q. 令和5年度当初予算案に込めた北陸新幹線福井・敦賀開業に向けた知事の思いを伺うとともに、年度当初から対応すべきものとして何に重点を置いたのか所見を伺います。

A 知事

桜マラソンや恐竜博物館リニューアルイベントなどの観光プロモーションを年度当初から充実して行います。そして、魅力的な宿泊施設の整備、交通系のICカードの導入、ハピラインふくいの鉄道資産購入といった地域交通の支援も強化してまいります。また、駅から観光地に行くような主要な道路を中心に、道路の舗装、区画線、交通安全施設などもしっかりと整備し、全線開通に向けて関西地域での機運醸成についても努めてまいります。

北陸新幹線の整備促進について

Q. 敦賀以西の認可・着工及び全線開業に向けたスケジュール感が示されていないことに対する知事の見解を伺うとともに、今後の整備促進に関する運動方針について所見を伺います。

A 知事

昨年末、政府与党におきまして今後のスケジュール感を示さない状況になったことは大変残念であります。やはり将来的な展望を持ちながらまちづくりをしていくことは重要であり、開業時期など全線開業までの道筋を示していただくことが必要と考えます。また、施工上の課題を解決することが重要で、その進捗を確認しながら最大限の協力をさせていただき、県議会の皆様とともに強く求めていきたいと考えております。

地域公共交通について

Q. 福井鉄道の抜本的な運賃見直しの検討や、えちぜん鉄道における運賃値上げの必要性、物価高騰によるハピラインふくいの収支見直しの必要性について所見を伺います。

A 地域戦略部長

福井鉄道は今年3月からフリー切符の料金を引き上げ、運賃体系の見直しを検討し、省エネ車両や鉄道ツアーの誘致など経営改善を図っております。えちぜん鉄道も同様に、運賃見直しの検討が必要な状況です。また、ハピラインふくいは現行のJR運賃水準から通勤定期を15%、通学定期を5%引き上げ、経営を支えることとしております。県としては、沿線市町と連携し、設備支援や減収補填を行い、地域鉄道の経営を支えていきます。

物価高騰対策について

Q. ゼロゼロ融資を利用した県内企業の現状について所見を伺います。また、県内事業者に対する経済対策の総括について、知事の所見を伺います。

A 知事

新型コロナ関連の中小企業向け制度融資については、昨年末までに計1万件、約1763億円の利用があり、返済完了は約1割の910件、返済開始が7割弱の6639件です。県としましては、借り換えを含めて1月から要件を緩和した制度融資により引き続き資金繰り支援をしております。そして、交通事業者に対する燃料費支援や、農林水産業者への資機材購入費支援も充実いたしました。状況の変化に応じた対策を今後も考えていきたいと思っております。

原子力政策について

Q. 国が示した今後の原子力政策の方向性と行動指針について、さらに既設炉の活用や次世代革新炉の開発・建設に当たって国にどのような対応を求めていくのか、また、使用済み燃料の問題やバックエンドプロセスの実現に向け、国の役割と行動について、知事の所見を伺います。

A 知事

政府が原子力政策の行動指針を示されたことは、一つ前進であると考えております。ただ、将来における原子力の必要な規模や、そこに至る道筋が示されたわけではございませんし、既設炉・革新炉を含めて、安全性について立地地域への丁寧な説明もさらに求めていく必要があると考えております。また、バックエンドの問題は原子力発電を行う上では避けて通れない道であり、電力の恩恵を受ける国民全体で課題を解決していかなければいけないと考えております。

少子化対策について

Q. 県は急速な少子化が進む中、本県の合計特殊出生率が向上しない原因がどこにあると考えているのか、また、今後の自然減対策の方針について所見を伺います。

A 知事

令和3年の合計特殊出生率は「1.57」で、全国でも高い出生率を維持しておりますが、2030年目標である「1.8」については大変厳しい状況であります。子どもを産まない理由となる経済的・精神的・体力的負担を軽減し、日本一の助成をしている不妊治療や、第2子からの幼児教育無償化、結婚マッチングシステムなどの結婚支援も強化し、今後は子どもの保育料無償化の範囲拡大や、ベビーシッター、子どもだけで乗れるふく育タクシーなど先進的な事業を強化してまいります。

DX推進について

Q. 県と市町を含めた行政DXに関する取組の現状と課題を伺うとともに、行政DXをベースとした産業DX及び生活DXの今後の方向性について所見を伺います。

A 地域戦略部長

本県では、効率的な行政DXを積極的に進め、年間3万時間の業務時間を削減し、行政手続の9割を電子化するなど、全国的にも高い評価を得ております。今後、市町とともに研修を実施しまして、デジタル人材を全県的に育成してまいります。生活DXでは遠隔診療や地域交通キャッシュレス化等を図り、産業DXでは、林業、森林データのデジタル化や観光データの分析等、県内企業の収益力向上に努めてまいります。

新型コロナウイルス感染症対策について

Q. 新型コロナウイルス感染症の類型を2類相当から5類に引き下げるメリットとデメリット、また、県内の医療体制を構築していく上で考えられる課題や対応について、知事の所見を伺います。

A 知事

オミクロン株は非常に重症化率が低く、インフルエンザの10分の1という状況で、日常的な生活や社会経済情勢が平常化するというメリットが大きいと考えています。一方で、高額な治療費やワクチンの接種の有料化、感染対策が緩んで医療のひっ迫を招くということもありますが、医師会ともさらに調整をしながら、混乱のない形で5類への移行を迎えたいと考えております。国に対しては、公費の負担継続や感染対策にかかる経費の補助、診療報酬の加算などを求めてまいります。

移住定住の促進について

Q. 国の支援拡充を好機と捉え、県内外に対し充実した子育て支援や恵まれた教育環境・就労環境など、本県の魅力を強く発信していくべきと考えますが、今後の方針について所見を伺います。

A 交流文化部長

来年度から、国が子育て世帯への移住支援金を大幅に増額するのに合わせ、本県も子育て世帯向け移住支援金の加算額の増額を当初予算に計上しております。県では、本県の強みである充実した子育て支援や福井の恵まれた生活環境を、ナッジの活用やSNS、YouTube広告などを通じて、県内外に効果的に発信してまいります。さらに、移住後も地域で安心して暮らせるよう、移住者向けのコミュニティづくりを支援し、移住定住を拡大したいと考えております。

普段どういう活動をしているの？

活動報告

【2023.1▶3】抜粋



あわら市 はたちのつどいに出席



1月 嶺北消防組合の消防出初式に出席



2月 中央公民館まつり「ほのぼの展」を視察



2月 ミズベリング越前若狭会議に参加



2月 芦原温泉駅西口賑わい施設アフレアを視察



2月 吉崎小学校子供の遊び舎あそぼっさを視察



2月 県道29号福井金津線の冠水を視察

ウィズコロナに向けた観光促進について

Q. 福井ファンの確保・拡大に向けた取組について何うとともに、インバウンド需要の現状と課題に向けた今後の対応方針について、知事の所見を伺います。

A 知事

東尋坊や三方五湖、越前打ち刃物、おろしそば等は国内外でトップの評価を得ており、また宿についても高級感や、ペットと一緒に泊まれる宿を増やすことで福井ファンを増やしていきたいと考えております。インバウンドにつきましても、これまでは台湾や香港が中心でしたが、欧米の富裕層にも刺さるような、伝統工芸と座禅体験を組み合わせた高単価ツアーや、唯一無二の体験コンテンツも増やし、首都圏・関西圏でのプロモーションも拡充し、国内外からの誘客に努めます。

ふくい経済ビジョンについて

Q. ふくい経済ビジョンが目指す将来像に対する知事の思いを何うとともに、実現に向けた今後の取組について所見を伺います。

A 知事

福井県は5年連続で幸福度日本一ですが、福井経済ビジョンの中でも経済成長を目指すということから、県民が幸せを実感できるような社会に切り替えていくことを目指そうとしております。まずは企業さんに生産性や付加価値を上げて経営基盤の強化を行っていただき、賃上げやリスクリングで人材確保・育成に力を尽くし、働きやすい職場にさせていただくことで、若者や女性が自己実現できるような人への投資を行うというような好循環を生み出していきたいと考えております。

鳥獣害対策について

Q. 今年度、県内の鳥獣害の状況についてどのような特徴があり、どのような対策を講じてきたのか、また、今後の対策方針も含め所見を伺います。

A 農林水産部長

12月末時点で、シカは丹南地域で3割増の約2200頭、イノシシは県全体で4割増の約2500頭の捕獲となっており、被害は拡大傾向にあります。また、サルにつきましては、嶺南地域などで生活被害が発生しております。人慣れした個体の捕獲などを実施し、特に悪質な2郡53頭につきましては3月に全頭捕獲する予定で、現在餌付けを行っている状況です。今後は、県・市町・外部専門家が連携したモデルづくりなどをさらに進め、現場に密着した対策を進めてまいります。

ふくい桜マラソンを契機とした福井の魅力発信について

Q. プレ大会及び石川県の金沢マラソン組織委員会との相互連携協力の協定をどのように本県の魅力発信につなげていくのか、そして本大会に向けた今後の方針について所見を伺います。

A 知事

3月のプレ大会では、全参加者約5000人のうち県外から1500人が参加予定で、観光案内や特産品販売などで本県をPRします。また、今秋開催の金沢マラソンでは、ランナーに直接ふくい桜マラソンへの参加を呼びかけ、いちほまれなど県産食材を記念品として提供します。そして第1回大会では、国内外の1万5000人のランナーに対して、サクラの名所を巡るコースや、おろしそば・羽二重餅の提供で、本物の福井を体感していただき、ランナーから選ばれる大会を目指します。

第3次いちほまれブランド戦略について

Q. 第2次ブランド戦略との相違点と強化策について何うとともに、県内農家の所得向上、営農活動の維持につながるいちほまれのブランド確立と販売量増加に向けた知事の意気込みを伺います。

A 知事

第2次戦略では、高い品質を保ちながら、都市圏でのPRや新しい量販店の開拓を行い、コシヒカリよりも高い価格で販売増加を目指しました。過去4年間で、販売店は倍増の2200店舗、販売量も4000トンから7000トンになりました。第3次戦略では、高級感を維持しながら、時期を分けて作ることで生産量を増やし、さらには、生産者の皆さんと米穀店を直接結びつけ農家の所得を向上させていくということに努めてまいりたいと考えております。

大型公共工事の事業費増嵩について

Q. 物価上昇等により事業費の見直しを繰り返す国に対して、管理体制のさらなる改善を求める等、一定の歯止めを促すことも必要であると考えますが、所見を伺います。

A 土木部長

昨年12月、国から大野油坂道路、冠山峠道路、足羽川ダムの実業費が増加し、事業費及び工期を精査していくことが伝えられました。県といたしましては、知事が国土交通省道路局長や水管理・国土保全局長、石井国土交通大臣に対しまして、事業費や工期の管理体制のさらなる改善や地方負担の軽減を求めたところです。引き続き事業費や管理体制のさらなる改善を具体化するとともに、必要な予算の確保をするよう求めてまいりたいと考えております。



2月 県道109号南横地芦原線の法面工事が完了



2月 笹岡地区の主伐を視察



2月 県政功労者表彰式に出席



2月 坂井地区子ども会育成研究大会に出席



2月 阪南大学研究成果発表会に出席



2月 あわら市商工会異業種交流会に出席



2月 福井ふるさと教育フェスタに出席



3月 北湯漁業協同組合の総会に出席

大雪への対応について

Q. 今回の予防的通行止めに対する評価と課題について伺うとともに、さらなる雪の強い道路や道路施設の整備について、県の見解を伺います。

A 土木部長

1月24日の大雪では、高速道路と国道が同時に予防的通行止めとなり、大規模な車両滞留はなく、集中除雪により早期に解除され、事前の広報もあり影響は最小限にとどめることができました。大雪時における事故やスタック防止、さらに流入交通量の抑制など、今後も関係機関と協議し改善を図ります。また、岸田総理に対しまして、国道8号、中部縦貫自動車道、舞鶴若狭自動車道などの整備を要望し、引き続き国に対しても災害に強い道路ネットワークの整備を求めてまいります。

公安行政について

Q. 交通事故死者数を減らす取組を伺うとともに、飲酒運転根絶に向けた取組と県警本部長の意気込みを伺います。

A 警察本部長

福井県は、人口当たりの交通事故死者数が多く、令和4年中は全国ワースト5位と大変厳しい情勢であると認識をしております。本年は、交通取締りや街頭監視、広報啓発活動の強化等を柱としたプロジェクトを展開し、全国ワースト県からの脱却を目指してまいります。また、飲酒運転は、昨年中、検挙件数が119件と高止まりの状況にあり、繁華街周辺での大規模検問など取締りを強化するとともに、各種機会を通じて広く周知し、飲酒運転根絶機運の醸成に取り組んでまいります。



教育行政について

Q. 公立中学校における休日の部活動の地域移行に対する国の方針変更を、県はどのように受け止めているのか、県としての今後の方針見直しの必要性について所見を伺います。

A 教育長

休日の部活動の地域移行につきまして、国は令和5~7年度を改革集中期間から改革推進期間と言い方は変えたものの、これまで通り早期に移行を進めることに変わりはないと考えております。部活動の地域移行は中学校教員の働き方改革をはじめ、生徒にとっても多様な活動の機会や質の高い指導が得られる有意義なものであり、中体連の全国大会も地域クラブが参加できるよう今年度改正が行われました。来年度実施する地域クラブ活動を、他市町にも拡大するよう努めてまいります。



私が所属する総務教育常任委員会の主なテーマ

01 地域戦略部 北陸新幹線敦賀以西の着工に向けて

- ・県内4駅周辺のまちづくりの進捗状況
- ・敦賀以西の整備に関する今後の対応方針と国への具体的な要望事項

02 地域戦略部 地域公共交通の維持・活性化

- ・地域公共交通の利便性・持続可能性・生産性の向上(物価高騰等による運賃値上げの可能性、収支計画への影響等)
- ・バスと鉄道の接続利便性の確保

03 教育委員会 部活動の地域移行

- ・部活動地域移行の目標達成年限の廃止を受けた県の対応
- ・小さい市町における受け皿、指導者確保に対する支援方針

04 総務部 大学を核とした産学官医金連携による人材育成

- ・デジタル人材の確保【学生教育、社会人教育(リカレント、リスキリング)】
- ・健康福祉部や産業労働部との部局間連携のための推進体制

05 総務部・地域戦略部 DX推進

- ・県と市町を含めたDXに関する取組の現状と課題
- ・行政内におけるデジタル人材の育成方針、業務の効率化・高度化による効果

06 総務部 行財政改革アクションプランの見直し

- ・フリーアドレスやフレックスなど職員の働き方改革

07 地域戦略部 ふくい創生・人口減少対策戦略の見直し

- ・国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を踏まえた見直し、結婚支援の拡充

08 教育委員会 教員採用試験の早期化、外部人材起用

- ・教職の待遇改善と多様な人材の確保に向けた県の対策

県政についてのご意見・ご要望をお聞かせください!!

明るい未来を目指して。福井新・時代

笹原修之

検索



福井県議会議員 笹原修之事務所

〒919-0632 福井県あわら市春宮三丁目19-15 (ハロープリント内)

TEL 0776-73-4513 / FAX 0776-73-1036 E-mail:sasahara@helloprint.co.jp

日々の活動
随時更新中!

